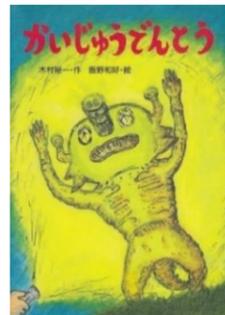


とぎつちよう うちどく すいしん
時津町は「家読」を推進しています

たまには テレビをけして

ていがくねん む ぶゆごう
低学年向け 2024年 冬号



「かいじゅうでんとう」

木村 裕一/作 飯野 和好/絵 (あかね書房)

ある日、道ばたで「かいじゅうでんとう」を見つけたぼく。スイッチをつけると、ひかりとともにへんてこなかいじゅうがあらわれた！しかもそのかいじゅうが言うには、ぼくのたのみをなんでもかなえてくれるそうだ。さっそく、ぼくがたのみを言おうとすると、かいじゅうのだすクイズにこたえてからだと言ってきた…。

クイズがとくいなぼくと、へんてこでよわむしなかいじゅうのものがたり。家族でクイズを考
えながら読んでみてね♪

うちどく 家読とは

かぞく す ほん よ ほん
家族みんなで好きな本を読んで、読んだ本について話す。これが「うちどく (家読)」です。難しいルールは
ありません。家族みんなでルールを決めてはじめてみましょう。

家族で同じ本を読みあったり、おとうさんやおかあさんに読み聞かせをしたりと楽しい時間を過ごしましょう。



「一年一組せんせいあのね」

こどものつばきセレクション」
鹿島 和夫/選 ヨシタケ シンスケ/絵 (理論社)

神戸の小学校の先生、鹿島先生がはじめた「あのね帳」は、クラスの子どもたちとたんの先生のこのかん日記みたいなものでした。ふだんの生活の中で感じたことを、詩にして先生につたえます。子どもたちの考えがとってもステキでかわいらしく、クスッとわらえるものもありますよ。ヨシタケシンスケさんのさし絵もぴったりです。

冬休みのしゅくだいに、きみも先生にむけて書いてみては？



「とうみんホテルグッスリドーズ」

かめおか あきこ/作 (岩崎書店)

ここは、冬をねてすごす、どうぶつたちのとうみんホテル。クマやヤマネ、リスやアナグマなどのおきゃくさまを、三びきのうさぎたちがおでむかえ。とうみんまへのばんさんかいでは、たくさんのごちそうがならびます！

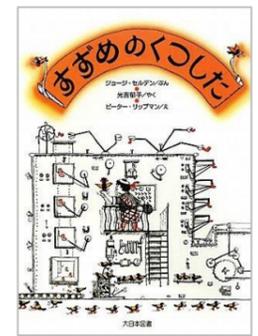
さて、みんな、どんなおへやでねるのかな？やがて春がきて…。さむい冬も、この絵本をよむとあったかくなりますよ。



「のうじょうのいえ」

ソフィー・ブラッコール/さく 山口 文生/やく (評論社)

とおいむかし、お父さんお母さんと 12人の子どもたちがくらしのうじょうのいっけんや。今ははいおくになってしまったのうかにのこされたかべ紙やぬのをひろいあつめ、作者はステキな絵本を作りあげました。家族のたのしげなわらいごえがきこえてきそうな、あたたかくてなつかしい絵本。大人にもおすすめです。



「すすめのくつした」

ジョージ・セルデン/ぶん 光吉 郁子/やく
ピーター・リップマン/え (大日本図書)

ぼくは、アングス。ぼくの家はくつした工場なんだけど、さむくなってもくつしたはぜんぜん売れなかった。ある日、ぼくの大的なかよしのすすめのブルースがからだをふるえさせていたので、さきのまっかな、よこじまのくつしたを作ってはかせてあげた。

すると、ほかのすすめたちもほしいとやってきたので…。



「じょやのかね」

とうごう なりさ/さく (福音館書店)

今日は、おおみそか。一年のさいこの日。夜ごはんは年こしそばを食べて、お風呂に入って…まだねません。今夜はパパと、じょやのかねをつきにいくってやくそくしたから！12月31日から1月1日にかわる夜、お寺でじょやのかねを「ごーん」とならしながらお正月をむかえます。白黒のさし絵が、しずかな年こしの夜にぴったりな一冊。